

<調査団の歴史>

第1次民音シルクロード音楽舞踊調査団（1977年7～8月）

○モンゴル / ソ連ウズベク共和国（当時） / パキスタン / ネパール / インド
モンゴルでは日本民謡の追分と思われる「オルチンドー」。ソ連ウズベク共和国（当時）では唐代の長安で詩にも謳われた「胡旋舞」。そしてパキスタンの秘境では正倉院の御物「腰鼓」のルーツ「ワッチ」。インドでは三味線の比較からダムニエンの調査・取材を行なった。

第2次民音シルクロード音楽舞踊考察団（1980年7～8月）

○中国 / パキスタン
中国では第2回公演の出演者の人選をはじめ、正倉院の御物、特に直頸五弦琵琶（亀茲琵琶）のルーツを考察するため敦煌莫高窟、新疆ウイグル自治区・クチャ（旧亀茲国）のキジル千仏洞やキジルガハ千仏洞の壁画に描かれた楽人や楽舞図、さらに同自治区の音楽を幅広く取材し、考察した。パキスタンではカラコルムの音楽を中心に、直頸五弦琵琶の系譜を取材した。

第3次民音シルクロード音楽舞踊考察団（1982年7～8月）

○トルコ / インド / 中国（チベット自治区、延辺朝鮮族自治州）
トルコではイスラム神秘主義の旋舞儀礼やトルコの民族舞踊。インドではカタック・ダンス。
中国のチベット自治区でチベット伝統舞踊劇。吉林省の延辺朝鮮族自治州でも旋回舞踊を取材し、シルクロードの広範囲な旋回舞踊を集中的に考察した。